三宅正太郎　愛媛県出身。司法官、随筆家。明治二十年八月二十七日東京生れ、昭和二十四年二月四日歿（一八八七―一九四九）。明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科卒。東京地方裁判所判事、大審院判事、東京地裁所長、札幌・長崎控訴院院長等を經て、昭和十四年司法次官、十六年大審院部長、二十年大阪控訴院院長。この間歐洲、支那へ數度出張。二十一年辯護士開業、また中央勞働委員會委員長就任。隨筆を能くし、劇評家としても知られた。

著書に『法官餘談』（昭和九年十一月二十五日新小說社）、『嘘の行方』（昭和十三年十月二十一日中央公論社）、『わが隨筆』（昭和十七年八月二十日武藏書房）、『裁判の書』（昭和十七年十一月二十五日牧野書店）、『そのきょうきょう』（昭和二十年十一月二十五日鶴書房）、『雨後』（昭和二十三年八月十五日木耳書房）等。歿後『三宅正太郎全集』全三巻（三宅正太郎全集刊行會編刊、昭和二十五年一月二十五日―八月二十五日好學社）、辯書のフランシス・ウェルマン著『反對訊問の技術』（伊能幹一共譯、昭和二十五年十月五日朝倉書店）が出版せられた。